

JSOG Newsletter

Reason for your choice

No.15
October
2014

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

公益社団法人 日本産科婦人科学会
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

第66回日本産科婦人科学会学術講演会

『医学生フォーラム』報告

4月19日の午後3時過ぎ、『医学生フォーラム』が開催される東京国際フォーラムのホールD5は、開始前にもかかわらず、すでに熱気に包まれていました



参加した医学生には、事前にグループ分け、すなわちテーマを連絡してありました。そのため、ほとんどの医学生が熱心に予習をしてきており、個人的にPowerPointのプレゼンテーションファイルを作成し

- A** 産婦人科関連のマスコミ報道が社会に与える影響
- B** 出生前診断の明と暗
- C** 途上国での出産の問題点と対策
- D** 少子化に対する対策

4月18日から3日間、東京国際フォーラムで、第66回日本産科婦人科学会学術講演会が開催されました。特別講演、シンポジウムをはじめとして多くのプログラムが行われましたが、その中で、本学会の学術講演会としては初めての試みである『医学生フォーラム』が開催されました。参加希望のあった全国の医学部6年生の中から、抽選で選ばれた108名の医学生が、12テーブル(グループ)に分かれて、3テーブルごとと同じテーマ、全体で4つのテーマについてディスカッションを行い、その結果を各テーブルの代表医学生がプレゼンテーションを行う、というプログラムです。各テーブルには、1名の産婦人科若手医師がアドバイザーとして同席しました。テーマは次の4つでした。



会場に見学に来ていた全国の産婦人科教授をはじめとす

て参加してきた医学生もいました。また、抽選にもれた多くの医学生も見学に来ていました。そうした医学生たちのやる気が、開始前から会場に満ちあふれていて、まさに熱気に包まれるという状態でした。15時30分、『医学生フォーラム』がスタートしました。各テーブルとも、とても真剣な、そして熱いディスカッションが行われました。ディスカッションが盛り上がり上がらなかつたらどうしよう、と考えてのアドバイザーの配置でしたが、それが全くの見当違いだったことにすぐに気がつかれました。アドバイザーだったある産婦人科若手医師の言葉です。「何もアドバイザーなどする必要もなく、学生たちの熱い議論を、ただただ呆然と眺めていました...」

その後、各テーブルのプレゼンテーションが行われました。ここでは紙面の都合で、その具体的内容を示すことはできませんが、日本産科婦人科学会に対して、あるいはすでに産婦人科医として働く我々に対しての提言があったり、自らの決意表明があったり、テーマDについては、アッと驚く少子化対策が提案されたりしました。どのプレゼンテーションも、我々のような産婦人科医にはない、柔軟な発想と創造性に富んだもので、本当に衝撃を受けました。

その後、各テーブルのプレゼンテーションが行われました。ここでは紙面の都合で、その具体的内容を示すことはできませんが、日本産科婦人科学会に対して、あるいはすでに産婦人科医として働く我々に対しての提言があったり、自らの決意表明があったり、テーマDについては、アッと驚く少子化対策が提案されたりしました。どのプレゼンテーションも、我々のような産婦人科医にはない、柔軟な発想と創造性に富んだもので、本当に衝撃を受けました。

その後、審査の結果、テーブルごとに最も評価の高かった『医学生フォーラム』は終了しました。終了後、しばらくの間、同じテーブルとなった医学生同士が連絡先を交換している姿が見られ、産婦人科学に興味を持つ医学生の横のつながりの構築、という意味でもとても有意義なプログラムであったと感じました。

『医学生フォーラム』は、次回、第67回学術講演会(2015年4月・横浜)でも行われる予定です。この『Reason for your choice』を読んでいる、全国の現医学部5年生の多くは是非参加してもらいたいと思います。『医学生フォーラム』って楽しいですよ、そして産婦人科学ってとっても面白いですよ!



る学会員も、皆同じ衝撃を感じたと思います。全テーブル

『医学生フォーラム』は、次回、第67回学術講演会(2015年4月・横浜)でも行われる予定です。この『Reason for your choice』を読んでいる、全国の現医学部5年生の多くは是非参加してもらいたいと思います。『医学生フォーラム』って楽しいですよ、そして産婦人科学ってとっても面白いですよ!

『医学生フォーラム』は、次回、第67回学術講演会(2015年4月・横浜)でも行われる予定です。この『Reason for your choice』を読んでいる、全国の現医学部5年生の多くは是非参加してもらいたいと思います。『医学生フォーラム』って楽しいですよ、そして産婦人科学ってとっても面白いですよ!

『医学生フォーラム』は、次回、第67回学術講演会(2015年4月・横浜)でも行われる予定です。この『Reason for your choice』を読んでいる、全国の現医学部5年生の多くは是非参加してもらいたいと思います。『医学生フォーラム』って楽しいですよ、そして産婦人科学ってとっても面白いですよ!

参加者の声

今年の4月に産婦人科に興味を持つ全国の学生が集まり、学会史上初の試みで医学生フォーラムが開催されました。形式としては、予め公表されていた4つのテーマについての資料や文献をもとにその場でグループ全体としての意見をスライドにまとめ、発表と質疑応答を行うというものでした。テーマは出生前診断・少子化対策・途上国の出産問題・産婦人科関連のマスコミ報道が社会に与える影響など多岐にわたる分野であり、新たに学んだ内容も多かったです。



普段の大学の実習では医学的知識や手技などに目を向けがちですが、この医学生フォーラムという企画により産婦人科領域の社会的問題を改めて認識し、それについて学生なりに意見を持ち議論する時間を頂けたことが非常に有意義であったと実感しています。
【東北大学医学部医学科 鈴木瑛梨】

私たちのチームのテーマは、発展途上国における出産の問題点と対策。非常に難しく考えさせられるテーマでしたが、チーム担当の杉並先生のご指導と学生の充実した準備のおかげで意味のある提言を出来たのではと思います。

最後に行われるチームごとの発表は素晴らしく、考えもしなかった提案や問題に対する新たな視点などがばんばん生まれ、わくわくした楽しい時間を過ごしました。



実は、当日会場に着いて初めて、何も準備していないのは私だけ、ということに気づき大慌て。教授から何ひとつ聞かされていなかったのです。(あとで教授は大笑いしながら謝ってくれましたが。)しかし、杉並先生の計らいで私にもプレゼンターという役割を与えていただき、貴重な体験となりました。
【横浜市立大学 富田詩織】

東大産婦人科プログラムの研修医の先生方に案内していただいたおかげで楽しく見学でき、3D画像を構築できるエコーや腹腔内視鏡、分娩器具などを体験して回りました。

医学生フォーラムは、テーマに関して各人が調べてきた内容を持ち寄り、班員で議論し、まとめた内容を代表者が発表する形式でした。扱うテーマは医学知識を要するものではなく、全員が気後れすることなく取り組みました。同世代の学生は同じ悩みを抱えているようで、「少子化は生涯未婚率の上昇によるものである。我々も結婚しなければ!」という主張が多かったです。ファシリテーターの先生のご指導のおかげでコンペでは優秀賞をいただきましたが、全国から集まった医学生と交流できたことが、やはり何よりの財産になったと思います。
【東京大学医学部 衣斐恭介】



今回日本産科婦人科学会に参加して、とても良い体験ができたと思っています。私は今回の医学生フォーラムへの参加が楽しみな反面、他大学の学生と短時間で話し合い考えをまとめて発表するのが可能だろうかと不安もありましたが、実際参加してみて合い考えをまとめて発表するのが可能だろうかと不安もありましたが、実際参加してみて合い考えをまとめて発表するのが可能だろうかと不安もありましたが、実際参加して



【久留米大学 清田茉莉子】

ここで紹介しているものは抜粋です。全文はWEBサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください!



講演を聴講する参加者



情報交換会での一コマ

第66回日本産科婦人科学会 会学術講演会を平成26年4月18日から3日間の日程で開催しました。総参加者数は7830名におよび初の7000名台で過去最高となりました。今回の学術講演会は筑波大学医学医療系産科婦人科学教授吉川裕之学術集会長による「IMAGINE THE FUTURE」をテーマとして、未来を「スローガン」としてプログラム編成を行っております。10年後、30年後、50年後私たちがどのような医療技術、治療法を開発し、患者さんへどのような医療を受けているのだろうか、若手医師や医学生のみならずが築いていく新しい世界を覗きたいという会長やベテラン医師の期待が込められています。

会学企画パネルディスカッションでは「想像しよう、日本のお産の未来を」をテーマとして理想的な未来の周産期医療提供体制を想像し、今後どのように創造して行くかが自由に議論されました。今回から始まった新企画「医学生フォーラム」は全国から集まった108名の医学部6年生が12のグループに分れ産婦人科にまつわる4つのテーマを3グループずつがディスカッションし、代表医学生が発表するフォーラムでした。将来の進路として産婦人科に興味を持つ全国の医学部6年生の発表は、豊かな個性と新感覚に満ちたもので審査員を唖らしてしまいました。本会が第1回目であり、会場が狭かった事、もともと設定していた時間では短かった事など反省点がありますが、好評であり、来年以降は今年の反省を生かして、更に充実した企画として継続されるものと思えます。



吉川裕之学術集会長

第66回日本産科婦人科学会

学術講演会報告

Annual Congress Report

8人毎の円卓に並び講義を受けるのですが、私達は皆バラバラに座り、現地のResidentの先生達との交流を行いながら講義を受けました。印象的であったのは学術的な内容ではなく、む

初期研修医や学生の皆さんが学術講演会に興味を持って下さることを目指して企画した産科救急トレーニングの実験セミナーは、申し込み予約があつたという間に一杯になってしまったほどで、非常に好評でした。学会参加者の親睦を深める情報交換会は18日の夜に行われ、恒例となったNST (Nissan Sound Team)の素晴らしい演奏と、吉川学術集会長の「サライ」の熱唱、そして、医学生も参加して歌い踊った「恋するフォーチュンクッキー」は今でもまぶたの裏に浮かびます。

個人的是には日本産科婦人科学会の諸先生方がいかに私達若手の育成を真剣に考えていらっしゃるかがわかった事がとても印象的でした。今までも考える機会すらなかったお酒を飲むという貴重な体験をさせて頂きました。

若手の先生方、素晴らしい体験が出来るのは非本プログラムへの参加にチャレンジしてみたい!! (東京大学・池田悠至、大分大学・平川東望子)

日米若手医師交換プログラム参加体験記

The American College of Obstetricians and Gynecologists

ACOG

米国産科婦人科学会



2014年4月26日から30日、シカゴのMcCormick Place Convention Centerにて第62回ACOG Annual Clinical Meetingが開催され、日本産科婦人科学会の若手医師6名(長崎大学:阿部 修平先生、東京大学:池田 悠至先生、群馬大学:今井 文晴先生、名古屋大学:西野 公博先生、東北大学:濱田 裕貴先生、大分大学:平川 東望子先生)が派遣されました。ACOGとの若手医師交換プログラムは年々充実してきています。本会の若手医師6名はどんな体験をしてきたのでしょうか。またACOGの若手医師との交流で何を感じたのでしょうか。生の声をお届けします。

普段私達はなかなか他施設で働く同年代の医師と交流を持つ機会がありません。今回、このような機会を通じ、同じ金の飯を食い、8日間にわたり同じ経験をした仲間を持てた事はこのプログラムの最も大きな財産だと思えます。

海外の施設を関係者の方にご案内頂けるのはとても刺激的になります。日本でもその傾向はあるかもしれませんがアメリカは格差社会がより明確で、対象患者により設備に大きな違いがあったのが印象的でした。

【▲全文はWEBに掲載されていますので、ぜひご覧ください!】

研修医の声

研修医の方々に、産婦人科を選んだ理由や、産婦人科に寄せる夢を語って頂きました。

女性の不安に寄り添いたいという想い

横浜市立市民病院・谷岡沙紀

産婦人科には多くの要素がまとまっている

埼玉医科大学総合医療センター・霞澤 匠

父が産婦人科として開業しており、元々慣れ親しんだ職業でした。授業を受け次第に興味を持ち始めましたが、産婦人科を目指したいと強く心に思ったのは、5年生の病院実習以降のことでした。産婦人科には多くの要素がまとまっていると感じたからです。幅広い年代の患者さんがいる中で、分娩では新しい命の誕生に携われ、合併症のある妊婦の管理や不妊治療における薬物療法もでき、帝王切開や腹腔鏡手術もでき、がん患者さんの精神的配慮もすることができます。患者さんは一般的に女性だけですが、人間の一生に関わり、なおかつその中に外科的・内科的・精神的要素が含まれていて、それが全てつながっていることに引きつけられました。

私は現在、埼玉医科大学にある3つの病院で産婦人科を中心に初期研修医2年目を過ごしています。尊敬できる先生方にご指導いただきながら1日ごとに新しい経験をしています。知れば知るほどその先に勉強すべきことが増えてきます。学ぶことが多いと思いますが、自信が持てるよう努力していきたいと思っています。